

## 平成 26 年度 協働のまちづくり活動支援事業 公開選考会 <事業内容・質疑応答>

### 1 メディネット江別 (協働の相手方：江別観光ボランティアガイド)



**【事業名】** 我がまち江別を知ろう、知らせよう事業

#### ◆事業内容

歴史・名所旧跡等の江別市の良いところを全国及び江別市民に広く発信する。

①観光ボランティアガイド活動状況撮影。(一般のガイド、名所旧跡の紹介ビデオ)

②ビデオ撮影・編集を行いDVD、PPTの作成、映像のインターネットアップを行う。

#### ◆質疑応答

選考委員：江別市の歴史的な建物などを記録していくことは重要だと思う。予算の収支に関して、パソコン3台が大半であるが、活動資金や作ったものを広報する資金は大丈夫か。

発表者：会費をいただいて活動しているが、講座を行うにあたっては資金不足であるので、今回申請している。

選考委員：団体の課題として後継者の育成が挙げられているが、講座の後、育成をどのように行うのか。

発表者：講座実施日に合わせ、実際に作ってもらう。その体験を通して一緒にやりたいという方が出てこればと思う。技術の勉強を通して参加者を増やしたい。

選考委員：江別市の情報発信は重要であるので、力を入れてほしい。情報図書館に寄贈するという話が出ていたが、札幌等にも広く「江別」を情報発信してはどうか。

発表者：昨年度は、賞はいただけなかったが、札幌のコンテストに応募した。文化協会に所属しており、インターネットで広げることや江別市と連携を深めたい。

選考委員：この事業を通して、何人ぐらい会員を増やしたいか。

発表者：現在3人体制で、様々な場面に対応し技術を活かす面から、2人増やしたい。

選考委員：大学との連携はどうか。北翔大学や北海道情報大学にプロの機材を使って学生たちが本格的に学んでいる。後継者不足とのことだが、どのように考えるか。

発表者：ありがたいお話である。学生たちと一緒に活動すると幅が広がるし、視点が変わる。協力いただきたいが、窓口がわからない。

## 2 あおむし人形劇団



**【事業名】**『楽しい!』と輝いてくれる目を求めよう!～手作り人形劇の楽しさを～

### ◆事業内容

今までに培ってきた内容を元に、新たな取り組み活動を行い、活動の発展を図る。

- ①人形劇団の新たな公演先を含むPRの拡大
- ②人形劇団の質を高めるための交流や研修

### ◆質疑応答

選考委員：昨年は自治会と一緒にあったが、人をつなぐ温かい活動の中で、発展的解消であると思う。他の自治会での展開を期待している。

発表者：自治会のつながりを紹介していただければありがたい。

選考委員：今年度の新たなメイン活動であるPR活動について、チラシをどう扱うのか。また、どのくらいの増加を見込んでいるのか。

発表者：自治会の数を把握しながら、幼稚園、保育園、学童、子育て支援サークルなどに活動を広めていきたい。活動の範囲は今まで10公演程度だったが、今年度は倍の20公演以上を目指したい。

選考委員：今日子どもたちの遊びはゲームが主流だが、手作りの人形劇のぬくもりや楽しさは非常に大切な活動である。講演後の交流を大事にしてほしい。

発表者：実際、講演の後に舞台裏を見るのも楽しみにしている子どもたちがいる。そういった感想をもらいながら、次の作品につなげていきたい。

### 3 江別創造舎（協働の相手方：のっぽろ七丁目放送局）



【事業名】江別カルタで辿る江別物語 2014

#### ◆事業内容

江別カルタを活用した地域文化振興活動を行う

- ①第2回江別カルタ大会の開催（ライブ中継有り）。今年度は子どもの大会も実施
- ②江別カルタ48枚を題材とした動画「江別カルタで辿る江別物語」を作る

#### ◆質疑応答

選考委員：昨年のカルタ大会の参加者は34名である。情報発信をして、参加者を増やしてほしい。5年かけて作ったカルタだが、市民全体のものとするため、市民の声をもう一度入れて修正する機会があってもよいのではないか。

発表者：私どもでも修正箇所があるが、自費で作っているため、なかなか改定できないでいる。多くの皆様に知っていただきたいので、お手元に届けられるよう努力したい。広報に関しては、時間が足りず不足していた。今年度は、広報に力を入れて進めたい。

選考委員：カルタで江別のことがわかるというのは貴重なツールだと思った。実際にカルタをすることが重要だと思うが、なぜDVDを作成するのか。

発表者：子どもたちがカルタをした時に、中身よりもゲーム感覚となってしまう面がある。それも良いが、一つ一つのカルタの意味をアナログからデジタルで共有することにより、江別の歴史認識を深めたい。この方式は、デジタル化世代だけでなく、ご高齢の方にも共感をいただいている。連携団体の放送局とも綿密な打ち合わせを行い、皆さんに満足していただけるものを目指したい。

選考委員：遊びながら理解していくことは素晴らしいと思う。小学生に限らず、幼稚園、保育園、デイサービス、高齢者施設など、幅広く普及させてほしい。

発表者：広報活動を充実させながら、江別カルタ、江別の物語の普及に励みたい。

#### 4 NGO Enjoy Cultural Exchange In Hokkaido Japan! 北海道で外国人と仲良くしよう! (協働の相手方: 北海道情報大学 異文化交流会)



【事業名】江別青年国際交流会

##### ◆事業内容

江別に住む外国人、留学生たちと楽しい交流会を開き、江別の仲良く楽しい多文化共生社会化を推進。維持する。

①江別市の食材を使った料理と他国料理を囲んで、各国のパフォーマンスや音楽の発表、ゲーム交流の促進をする。(年間5回)

##### ◆質疑応答

選考委員: 江別には4大学1短大があり、留学生も多い。このようなきっかけづくりは非常に重要だと思う。今回の計画の中で会場消耗費が大きいけど、内容を教えてほしい。

発表者: 今までの経験からすると、初回は中々集まりづらいと考えられる。入場料を安く設定している分、ご支援いただきたい。会場内のレシピに関しては、地元の食材を使ってつくることを考えている。

選考委員: 一度に何人集めての開催か。また、江別を知ってもらう工夫、参加型の工夫やアイデアはあるか。

発表者: 1回30人、500円を想定している。交流会に関しては、スタッフで考え、笑えるものからマニアックなものまでを題材とした「江別ゲーム」を行う。また、江別の食材を使った料理を通して、こういうもので作っているということを知っていただきたいし、外国からのレシピを提案してもらおう。そういった交流の中から、江別のことをわかっていたくのが目的である。

選考委員: 外国人の方との交流はいいことだと思う。市内には働いている青年もいるが、そういった方も対象なのか。

発表者: 人数的に大学生の参加が多くなると思うが、大学生に限ってはいない。働いている方、国際交流に興味がある方、今まで参加していなかった方、そういった方に参加していただくのも目標の一つである。

## 5 幸せなまちづくり江別の会（協働の相手方：大麻ジュニアクラブ）



**【事業名】** ありがとうポストを設置しよう

### ◆事業内容

他県の事例を参考に、市民と医師のよりよい関係構築に寄与するため、病院に「ありがとうポスト」を設置し、市民からの医師への感謝の気持ちを伝える活動をする。

- ①ニュースレターを発行し、ありがとうカードの意味などを紹介する。
- ②学童保育の子どもたちに絵を描いてもらい、「ありがとうカード」を作成する。

### ◆質疑応答

選考委員：江別の地域の課題に着目して解決していく意識、今回の事業にたどり着いた経緯がよくわかった。今年度はカードを作るだけとのことだが、どのくらいの数の病院においていただくのかもリサーチが必要であり、同時に進めていくことが重要だと思う。

発表者：江別市立病院に置いていただきたいと考えている。ポストの内容や設置趣旨を説明し、実際問題をクリアしていきたい。他の病院に関しては、リサーチしていない状況だが、医師会などにも働き掛けていきたい。病院の中で完結してしまいがちなので、可能であれば市民活動センターの一部活用など、一般に公開するのも手だと思う。また、「ありがとうの気持ちを伝える」という意味では、市民の方が医者に限らず伝えたい人に向けてより広く使っていただくのも良いかと思っている。

選考委員：よい話かと思って聞かせていただいた。病院の先生は本当に大変な仕事だと思う。地方に行くと、病院施設があるのに医者がないところもある。そういった中で、ちょっとした励ましかもしれないが、こういう取り組みは大事だと思うし、自分の町に医者を残せる、確保できる要因になるのは大切だと思う。反対に、苦情は大変に難しい問題になるが、励ましの手紙が届くよう、成功すればいいと思う。

発表者：「感謝の気持ちを伝える」ことを明示して、苦情などが入らないように工夫していきたい。

選考委員：医者が、ここ（江別）で働いてよかったと思える取り組みになると思う。医者へ伝えるだけでなく、医者からの声を届けるということは考えているのか。

発表者：考えている。様々考えているが、次年度以降、カードにQRコードをつけて意見集約するなどの取り組みを考えている。

## 6 語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭



【事業名】 「えべつ 俄 (にわか)」

### ◆事業内容

芝居によって江別市民のふるさと感情を盛り上げ、対外的には江別の良さを劇的にアピールする。

①江別俄 (にわか) を発展的に取り組んでいくための衣装や幕などの制作

### ◆質疑応答

選考委員：市民にも「俄」という劇があるということを広報した方がいいと思う。また、行政主体で友好都市の交流があるが、文化を主体とした交流もあって良いかと思う。

発表者：ありがとうございます。

選考委員：江別を題材とした芝居を、どんどん皆さんに楽しんでもらっていただければと思う。江別を題材とする中で、舞台の前の段階からお芝居の内容を市民の皆さんと考えるというような工夫も大事かと思った。公演するという以外にも、多くの市民の方に広げられるアイデアがあれば教えてほしい。

発表者：今は自分たちの団体の中でまとまってしまっている感があるので、多くの人に関わってほしいと思う。「自分も表現したい」と思っている人はいると思うので、そういった方を取り込みたい。舞台でお話をしていただきたいし、一つの役からでも参加してほしいと思う。

選考委員：10年続けばとおっしゃっていたが、10年は伝統につながると思う。続けること、後継者を育てること、自分たち以外の仲間を育てることは大事だと思う。「俄」というのは初めて聞いたが、小話というような要素もあるのか。

発表者：その通りで、漫才の原型とも言われている。

選考委員：舞台の中央に染幕というのがあり、それが重要とのことだが、これば北海道で、江別で作れるのか。

発表者：北海道では作れると思うが、江別では分からない。

## 7 江別子ども劇場



**【事業名】** 江別子ども演劇クラブ

### ◆事業内容

演劇を通して、子どものより豊かな表現力やコミュニケーション能力を高める

①こども文化祭の出演や施設訪問などで発表できるまでに特訓する。

### ◆質疑応答

選考委員：コミュニケーションができない子どもが少なくない。そういった中で重要な活動だと思う。38年続いている中で、継続されていたのは大変なことだと思う。「江別子ども劇場」が母体となり、新たに「江別子ども演劇クラブ」をつくるということか。どういった活動をしていくのか、市民を巻き込む工夫も含め、計画的なものがあれば教えて欲しい。

発表者：言葉で説明するより、見ていただくことが一番だと思う。毎年の活動・発表の中で子どもたちが私もやってみたいというように広がっていくと思う。情報図書館と小学校19校にポスターで告知している。増えることを望んでいるが、今いる子どもたちを中心に進めている。

選考委員：予算の道具費10万円とあるが、どういったことに使っていく予定か。

発表者：和服などもあるため、衣装代に6万円と考えている。4万位で道具や大道具を作ることを考えている。指導者は、うるうる亭の北本氏に指導していただいている。